

第Ⅳ章 将来像の実現に向けて

1. 将来像の実現に向けた課題

(1) 非史跡施設の継続的な移転の推進

非史跡施設は史跡地外への移転を原則とします。現段階では移転が困難だと考えられる施設についても、施設の老朽化や利用状況の変化、社会情勢の変化などを見極めながら、長期的な視点のもとに継続して移転を検討します。

(2) 史跡の全容解明に向けた調査・研究の実施

鴻臚館跡と福岡城跡の全容解明に向けて、計画的な調査・研究を継続して進めます。また、調査・研究によって新たに明らかになった内容については、計画内容との調整を行ったうえで、保存・整備・活用への展開を積極的に行っていきます。

(3) 一体的な管理運営に向けた体制の充実

大濠公園と舞鶴公園の一体的な管理運営体制の構築はもちろん、史跡や芸術文化施設、休養施設、専門家、ボランティア、地域、公園利用者など、様々な主体が情報を共有し、連携しながら両公園の魅力の維持・向上に努めることができる体制の充実を進めます。

(4) 財源確保の仕組みづくり

施設利用の有料化や寄付・基金の仕組みなど、両公園が自立して一体的な運営を行うことができる財源確保の仕組みづくりを推進します。その際、民間資産やノウハウを取り入れ、公園と企業の双方にとって、効率的かつ効果的な公園整備や運営に活かすことを検討します。

(5) 周辺地域への広がり連携

大濠公園、舞鶴公園の水と緑や、歴史、芸術文化などの雰囲気公園外へと広がりを見せ、福岡の都市全体が公園のような雰囲気となるよう、周辺地域との連携を図ります。また、広域的な視点のもとで県内外の観光地や関連施設との連携強化を図ります。

(6) 様々な分野との連携

みどりや歴史、芸術文化、観光など両公園と直接的な関連性が高い分野との連携にとどまらず、経済や教育、福祉など幅広い分野との連携強化に努めます。

(7) 関連計画との連携・調整

本計画における再整備や管理運営の内容を実行するにあたっては、「国史跡鴻臚館跡整備基本計画」と「国史跡福岡城跡整備基本計画の内容」に基づく整備や管理運営の内容との連携・調整を図ります。特に歴史の重層性の表現や、景観の構成、施設のデザイン等についてはそれぞれの整備・管理運営段階において調整・見直しを図ります。

■セントラルパーク構想における将来像のイメージ



※鴻臚館跡の具体的な内容は、「鴻臚館跡整備基本構想」にて検討